



ADRC Highlights

Vol.142

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

1 July 2006

▶ インドネシア・ジャワ中部地震へ調査団派遣

アジア防災センター (ADRC) および国際復興支援プラットフォーム (IRP) 事務局は、インドネシア・ジャワ西部地震を受けて、緊急調査団を派遣し、5月30日から6月4日の6日間、インドネシア共和国首都ジャカルタ及びジョグジャカルタ州に於いて地震直後の被災地の状況把握及びニーズ調査等を実施しました。

ジャカルタでは、インドネシア政府国家災害管理調整局 (BAKORNAS) のトリウトモ課長に面会しました。政府は、復興計画策定のための被害調査やニーズ調査を開始しているとのことでした。ADRC は、被災地の復興に協力する申し入れをすると共に、BAKORNAS の体制整備に対する支援について確認しました。

ジョグジャカルタ州では、被害が大きかったとされるジョグジャカルタ市の南方バントウル県を中心に、村民へのインタビューや関係機関訪問を含め被災状況の現地調査を実施しました。

今回の地震では、主要インフラの損傷は大きくなく、今回動いたオパック断層から離れていた市内中心部は、所々虫食い状に倒壊家屋は存在するものの、ほぼ通常の生活が営まれていました。これに対し、オパック断層沿いに点在している農村部では、木造及びレンガ造りの住宅のほとんど (9割以上に達する村落もあり) が倒壊していました。被災後間がないことから食料や医療品等の物資ニーズが大きく、また早急な住宅再建を求める声も多く聞かれました。



現地の報道によると、政府は6月6日までに捜索救助活動を終了させ、その後1週間で復旧 (リハビリテーション) にあて、その後は住宅再建を含めた復興 (リコンストラクション) を行う計画とのことでした。

今後 ADRC および IRP は、JICA などが実施する詳細な現地調査を通じて、その他各分野の専門家に対する情報提供を行うと共に、BAKORNAS の要請があれば、地方政府や地域住民に対するセミナーへの人材派遣、実施協力等を行います。この件につきましては、荒木田主任研究員 (arakida@adrc.or.jp) までお願いいたします。

▶ 第3回国際防災復興協力シンポジウム開催

IRP 事務局ならびに ADRC は、2006年5月30日、「IRP 発足1周年記念 第3回国際防災復興協力シンポジウム～兵庫行動枠組の実現に向けて～」を神戸市中央区で開催しました。これは、UNDP、UN/ISDR、UN/OCHA 神戸、内閣府、兵庫県との共催により行われたもので、10カ国170名の防災関係者や復興に関心のある方が参加しました。このシンポジウムでは、齋藤兵庫副知事、武田内閣府大臣官房審議官、プリセーニョ UN/ISDR 事務局長による開会挨拶に続き、基調講演、IRP の3つのハブ (神戸、ジュネーブ、トリノ) において、この一年間で行われた取り組みの報告やパネルディスカッションが行われました。

基調講演は、UNDP 防災部長で IRP 運営委員会委員長のマスキリー氏がいき、IRP の使命は単に物理的な復興を行うものではなく、長期的な視野にたってリスクの軽減に資することであり、経験及び優良事例の収集・共有、人材育成、ニーズアセスメントツールの開発が必要であることが強調されました。

続いて、IRP 事務局 (神戸) のカーン復興調査官から、IRP 神戸

でとりまとめた復興優良事例データベースをもとに、この度概要版が完成した『災害からの復興に学ぶ～よりよい復興のための指針～』(クランフィールド大学デイビス名誉教授主筆・編集) についての紹介、プジョノ UN/OCHA 神戸代表によるレイテ島地滑りにおける OCHA の活動について、村田復興専門官によるレイテ島地滑り・パキスタン地震に際しての緊急対応から早期復興への連携と IRP の役割などについての報告が行われました。さらに、トリノハブのラザルテ ILO 危機対応・再建国際重点計画責任者による「よりよい復興に向けた人材育成」への取り組み状況についてのビデオ報告、ジュネーブハブのパルデシ ISDR 事務局上級アドバイザーからの「復興のためのニーズアセスメント手法の開発」についての報告が続きました。



パネルディスカッションでは、IRP 事務局のシンハ事業総括官がコーディネーターを務め、プリセーニョ UN/ISDR 事務局長、マスキリー UNDP 防災部長、西川内閣府参事官、鈴木 ADRC 所長により、これまでの IRP の活動実績に対する評価と今後の活動展開について、活発かつ具体的な議論が交わされました。

なお、当日のシンポジウムの模様は、「117 ブロードバンド TV」のご協力により、IRP の HP (<http://recoveryplatform.org/>) にてインターネット放送をご覧いただけます。この件につきましては、村田 (murata@recoveryplatform.org) までお願いします。

▶ アジア防災センタースタッフ紹介 No. 25

□ 小鹿 健平 主任研究員



今年6月より東電設計株式会社から ADRC に出向しております小鹿健平と申します。私は中国の出身です。中国で土木専攻の修士課程を修了後、1987年に日本に留学しました。これまでは、地震危険度解析や入力地震動の策定、構造物の地震応答解析、確率論的構造物の耐震安全性評価、地震津波解析など広範囲に亘って地震災害軽減に携わりました。

自然災害の軽減には、直接被害の軽減対策と災害発生時に二次災害を最小限に抑える対策が必要です。直接被害を軽減するには、防災技術の向上、設計基準の整備等が重要であり、国が強い役割を担わなければなりません。一方、二次災害を最小限に抑えるには、国、自治体、個人を含めた社会全体が主役となった防災計画、訓練、教育等が重要であります。

アジア防災センターのメンバー国では、それぞれの国が直面する自然災害のパターンに違いがありますが、共通して言えるのは、自然災害の軽減には、長い年月の努力と巨大な資金を必要とします。ある言葉に「この地球はわれわれが親から受け継いだものではなく、子供達から借りたものである(大意)」とあるのを思い出しました。われわれは、よりよい生活環境を築き、災害に強い社会を構築したこの美しい地球を子供達に還さなければなりません。

ADRC でアジアの防災業務に携わることは、光栄であるとともに、新たな挑戦でもあります。私のこれまでの経験をアジア地域の災害軽減に役に立てれば幸いです。

ご意見・ご要望等があれば
右記までご連絡ください。

編集・発行: Asian Disaster Reduction Center (アジア防災センター)
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2 ひと未来館 5F
E-mail: editor@adrc.or.jp TEL: 078(262)5540 FAX: 078(262)5546
誌代・送料: 無料 / 毎月2回発行 (予定)